

# 「生きて伝える平和」

多摩市立連光寺小学校 5年 広瀬 冬悟 ひろせ とうご

僕は広島に着いたとき、思っていた街と全然違ってびっくりしました。大きなビルが立ち並び、美しい川や路面電車が通る街並みは、まるで銀座にいたようでした。

しかし、雰囲気が違う建物が一つだけありました。原爆ドームです。80年前ここであった出来事を、決して忘れてはいけないということを僕たちに語りかけているように感じました。

みなさんは原爆ドームを見たことがありますか？かつて産業奨励館として建てられた建物ですが、原爆投下後、平和への願いを込めて当時のままに残されています。

当時のまま残されているものを僕はもう一つ発見しました。それは被爆樹木です。

ユーカリ・クロガネモチ・アオギリなどがあり、驚いたことにそのすべての被爆樹木が爆心地の方に傾いているということです。しかも皮が剥がれ変色もしていました。まるで木たちが広島を守ろうとしているように僕には見えました。それでも木は今も生き続けています。

平和記念資料館にも行きました。僕は「はだしのゲン」を見てこの事業に参加してみたいと思いましたが、やはり資料館に入る前は気が重く、暗い気持ちになりました。中に入ると「1945年8月6日午前8時15分」原爆投下の瞬間を空から再現している展示があり、この一瞬で全てを奪われた人たちの苦しみや悲しみが、遺品を通じて伝わってきました。そして大切な人を亡くしても、生き抜いてきた人たちの力強さを深く感じました。館内は日本人だけでなく、世界中から沢山の方が訪れていて、住んでいる国が違って、平和を願う気持ちは同じだと感じました。

それから胎内被爆者の二川さんの話を聞きました。胎内被爆者とは、お母さんのお腹の中で被爆した方のことです。二川さんは被爆者として受けた差別や、同じ胎内被爆者の方がご結婚される時も「被爆者と結婚しても良いのか」などと言われたエピソードを、涙を笑顔で隠しながら話して下さいました。

今の世界は本当に平和と言えるのでしょうか。

最後に平和記念公園の「平和の鐘」をご紹介します。その鐘には世界地図が描かれています。しかし国名は書かれていません。何故だと思いますか？それは、世界は一つという意味が込められているのです。この鐘のように、いつか世界が一つになるように、これからも僕たちは、核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを生き抜いて伝えていきます。